

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和7年(2025年)

10-11月号

(通巻 220号)

2025年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

キバナアキギリ

山野ではありふれた秋の野草ですが、市川市域では貴重な存在です。そういう野草が、市内にいくつもあります。

- P1 🌻 いきもの写真館
キバナアキギリ
- P2 🌻 長田谷津いきもの暦
10月と11月の暦
/ 3
- P4 🌻 花を透明にして観る
ツリフネソウ
- P5 🌻 長田谷津のとりたち
ミソサザイ

- P6 🌻 くすのきのあるバス通りから
カメムシをかぞえていました
- P6 🌻 ミニ解説 市川市域
砂州越えの川
- P7 🌻 わたしの観察ノート
7～8月の記録
- P8 🌻 ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



自然博物館では学芸員が記録した自然観察の記録を自然観察週報としてHPで公開しています。その中から、長田谷津のここ10年の記録に焦点を当てて、日付順で記載しました。長田谷津の自然の移り変わり、季節指標などを感じていただければと思います。

長田谷津いきもの暦

10月

湿地にミゾソバやイヌタデのお花畑が出来上がると、秋も本番です。ある日突然、たくさんのアキアカネが飛来します。クヌギやコナラのどんぐりの実りもこの時期を象徴する風景です。渡り鳥や冬を越す鳥たちが次々と到着して長田谷津全体が賑やかになります。

- 1日 満開のフジバカマにキタテハとツマグロヒョウモンが来ていました(2024)
- 2日 オオアオイトトンボがいました(2020)
- 3日 谷津の空間のあちこちでアキアカネが群れ飛んでいました(2015)
- 4日 ジムグリが斜面林をのんびりと進んでいました(2015)
- 5日 ミゾソバが咲いて、あちこちに群落ができました(2019)
- 6日 もみじ山でホソミイトトンボを3頭ほど見ました(2023)
- 7日 イヌショウマが咲きました(2018)
- 8日 大池でアオサギが大きなウシガエルを捕まえました(2018)
- 9日 雨の中、もみじ山でマミチャジナイを見かけました(2020)
- 10日 ニホンミツバチの巣があった木の洞から、オオスズメバチがミツバチの幼虫を持って出てきました(2021)
- 11日 カシワバハグマが咲いていました(2022)
- 12日 ヒメジソの可愛らしい花が咲き始めました(2022)
- 13日 -
- 14日 ハンノキ林で園路にツツドリが降りてきました(2022)
- 15日 斜面林の淵をアサギマダラが飛んでいました(2021)
- 16日 斜面林からアカゲラの声が聞こえてきました(2020)
- 17日 小学校の体験学習で小学生がマツモムシを捕まえました(2018)
- 18日 長田谷津の至る所でヒヨドリが見られました。渡り途中の群れが立ち寄っていると思われます(2018)



アキアカネ



ミゾソバ

- 19日 枯れ始めたヨシ原からアオジの声が聞こえました(2018)
- 20日 コナラが豊作で、よく太ったどんぐりがたくさん落ちていました(2017)
- 21日 エゴノキの実がよくできています。ヤマガラのエゴノキ集めは最盛期のようにでした(2015)
- 22日 大池の横にアオバトのオスがいました(2020)
- 23日 イヌタデがちょうど満開でした。あぜ道で群れ咲くイヌタデは、秋の代表的な景観のひとつです(2022)
- 24日 サンショウの葉にクロアゲハの幼虫がいました(2021)
- 25日 ガマの穂がはじけて、綿毛が飛んでいました(2018)
- 26日 クヌギの樹液にクロコノマチョウが集まっていました。一か所で8頭が樹液を吸っていました(2019)
- 27日 湿地の草刈りをボランティアの人たちと行くと、お腹の大きなニホンアカガエルが、何匹も見つかりました(2019)
- 28日 草刈りをしているとクビキリギスの成虫が何匹も飛んで逃げて行きました。その中にピンク色が1匹いました(2018)
- 29日 キセキレイが鳴きながら飛び回っていました(2021)
- 30日 斜面林でシメが観察できました(2020)
- 31日 ムラサキシキブの実が、きれいに色づきました(2023)



イヌタデ



ムラサキシキブ

自然博物館では学芸員が記録した自然観察の記録を自然観察週報としてHPで公開しています。その中から、長田谷津のここ10年の記録に焦点を当て、日付順で記載しました。長田谷津の自然の移り変わり、季節指標などを感じていただければと思います。

長田谷津いきもの暦

11月

もう少しで、本格的な冬の到来です。長田谷津の生物たちも冬支度が進みます。下旬は紅葉の季節、もみじ観賞会が行われ、多くのお客様が来園されます。もみじはもちろん、黄色のコナラや真っ赤なツタ、カラウスリの実などさまざまな秋が長田谷津を彩ります。

- 1日 ツタの葉がきれいに色づきました(2016)

- 2日 斜面林の縁でジョウビタキを見かけました(2019)

- 3日 オオハナワラビが胞子葉を伸ばしていました(2018)

- 4日 大池をハラビロカマキリが泳いでいました。ハリガネムシに寄生され、水に誘導された個体だと思われます(2019)

- 5日 シラカシの葉に越冬態勢のウラギンシジミが2頭とまっていた(2016)

- 6日 木々の葉が少しずつ落ち、からんでいたカラスウリの実が目立つようになりました(2015)

- 7日 バラ園下の池に網を入れると、タモロコの若魚がたくさん獲れました(2015)

- 8日 斜面林にツグミが2羽止まっていた(2019)

- 9日 大町門から入ってすぐの日当たりの良い場所にホソミオツネトンボがいました(2023)

- 10日 アオサギがハラビロカマキリをくわえていました(2018)

- 11日 小学生と自然観察をした時に、児童がタヌキを見つけて大喜びでした(2020)

- 12日 アオジの数が増えました(2021)

- 13日 園路の上に60cmほどのジムグリがいました(2018)

- 14日 園路沿いでオオマルバノホロシの赤い実がついていました(2023)

- 15日 ヤツデの花がよく咲いていました。ハエやアブ、ミツバチなどが蜜を求めて来ていました(2019)



ツタ



ホソミオツネトンボ

- 16日 クヌギの木の樹液が出る場所にクロコノマチョウが来ていました(2021)

- 17日 ハンノキの根元の盛上った場所に、ヤブコウジが群生していました(2017)

- 18日 シジュウカラの緊張した声が聞こえ、上空を見上げるとオオタカが飛んでいきました(2017)



シロダモの花

- 19日 -

- 20日 シロダモの実が赤く熟し、今年の花も黄色くふわりと咲いていました(2015)

- 21日 園路の上にオオスズメバチのオスがいました(2021)

- 22日 コナラの黄色や橙色の紅葉がきれいでした(2016)

- 23日 ムクノキが実っていて、ツグミやシロハラ、ヒヨドリ、メジロが実を食べに集まっていた(2023)

- 24日 ルリビタキの音が響いていました。近くで鳴いた個体は姿を確認することができました(2019)

- 25日 お昼ごろの暖かな日差しを受けてアキアカネが飛んでいました(2022)

- 26日 エナガがヨシ原に降りて枯れた茎を割っていました(2021)

- 27日 切った木を積んである場所で、ミソサザイが見られました(2018)

- 28日 アカガシの葉にムラサキツバメが3頭密集して止まっていた(2021)

- 29日 園路の手すりに、アカスジキンカメムシの幼虫がいました(2024)

- 30日 メジロがムラサキシキブの実をついばんでいました(2021)



ムラサキツバメ

花を透明にして観る*****

ツリフネソウ

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしまいますが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしまいますが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。



ツリフネソウの花

- ・写真の左側、ラッパ形の部分は、3枚ある萼（がく）のうちの1枚が筒状になったもの。
- ・写真の右側、翼のように左右に広がるのは、3枚ある花弁の2枚の前半分が広がったもの。
- ・筒形の萼1枚と翼形の花弁2枚が花の形を作っている。
- ・開口部の上から下がっている白い部分が雄しべ。雄しべ5本が雌しべを取り囲んでいる。
- ・花に侵入する昆虫の視点ではツリフネソウは横向きの花だが、萼→花弁→雄しべ→雌しべという花の部品の重なり順で言えば、この花は下向きに咲いている。
- ・尻尾のように伸びた部分に蜜があり、それをスズメガ類がストローのような口を伸ばして吸おうとすると、ちょうど頭部が雄しべに触れるという、絶妙な位置関係。

長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から
一押しのとりにちをエピソードと共に紹介します。

ミソサザイ

ミソサザイはユーラシア大陸に広く分布するスズメ目の鳥です。日本全国で見ることができ、低山から山地の溪流沿いで繁殖し、冬は平地に移動するものもいます。長田谷津では主に11月下旬から3月中旬まで見ることができます。長田谷津で越冬する鳥の中ではルリビタキと並んで到着が遅い鳥です(2024年の初認日：11月29日)。非常に小型で、キクイタダキと並んで日本最小の鳥として知られています(写真1)。繁殖地では大きな声で囀りますが、長田谷津では「チャッチャツ」と舌打ちのような地鳴きをよく聞きます。ウグイスの地声にそっくりですが、より強く短い印象を受けます。

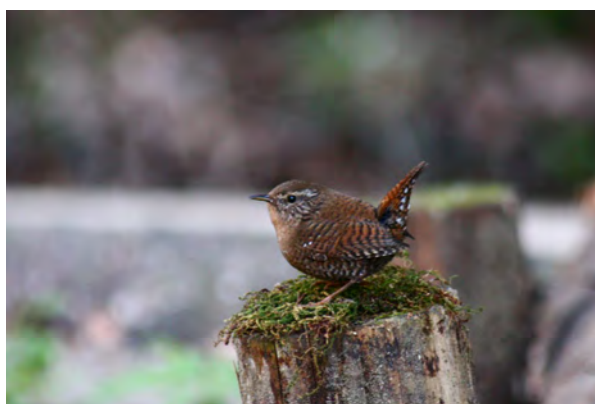


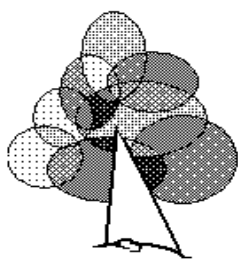
写真1. 小さな体に、ピンと上げた尾羽が特徴
(2012年2月2日 長田谷津)

ミソサザイの見つけ方

「ミソサザイはどこ？」来園者から冬の間よく聞かれる質問です。行動範囲が広い鳥をここに行けば見られるというのは、難しいことが多いですが、長田谷津のミソサザイは遭遇率が高く、観察しやすい場所があります。それは、倒れた木や伐採した木を積んである場所です。カシノナガキクイムシによるナラ枯れの影響で最近はそのような場所が多くあります。暗く、込み合った場所を好むミソサザイにとって、積み上げた木は身を隠すにうってつけであり、さらに、餌となる昆虫など小さな動物を取ることもできる理想的な環境のようです(写真2)。ぜひ探してみてください。



写真2. 積んだ倒木を移動するミソサザイ
ちょこまかと動き回り、積んだ木の下をくぐる姿は、鳥の動きには見えないことがある
(2018年11月27日 長田谷津)



くすのきのあるバス通りから No.162

カメムシをかぞえていました

9月27日、西船橋の台地の上から、中山法華経寺まで歩きました。お寺や神社では、セミが鳴き、ヒガンバナが咲き、ギンナンが落ちていました。

庭のネムノキに、薄くて幅広の豆ができていました。エノコログサが、変な揺れ方をしているのが、家の中から見えしました。スズメが飛びついていました。地面に穂を下して、ついばんでいるようでした。何度も繰り返していました。田んぼのイネで、スズメが同じことをしているのを、見たことがあります。

市川真間駅近くの、三本松バス停でバ

スを待っていると、下校途中の小学生たちが「4匹、1匹…」と言いながら、通り過ぎていきました。「何が4匹？」と、彼らの目の高さの街路樹を、見てみました。モミジバフウの幹に、目立たないカメムシがいました。自然博の方に聞くと「キマダラカメムシです」「市川でも増えていますね」と。アスファルトと車社会、コンクリートのマンションやビルの中で「虫に関心を持つ子供がいる」のが、うれしいような、ほっとした気持ちです。

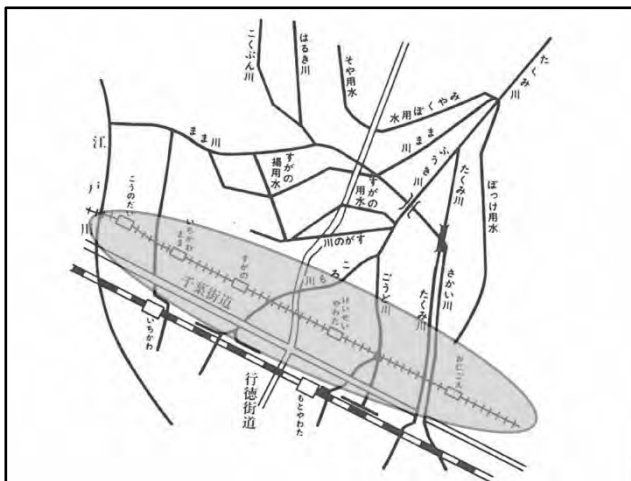
(M. M.)

No.4

市川市域

砂州越えの川

市域の水の動きは北から南です。北は一段高い台地で、南は低地です。その境は斜面になっていて斜面裾に湧水があり、その水が川になって南に向かいます。市川市域では中部に市川砂州という高まりがあるため、そのまま東京湾に注がず、川は西の江戸川に向かいます。その結果、砂州の北側には水が溜まり、南側には東京湾の潮の影響を受ける水しかありません。どちらも水田には不都合な状況でした。そのため砂州越えの川が何本も掘られ、北側の排水の改善と南側への淡水の供給が図られました。図は鈴木恒男さんの「真間川百年」から引用した流路の図に、市川砂州の範囲をイメージとして書き足したものです。





◆長田谷津より

- ・動物園券売所のすぐ近くで、園路を横断しているジムグリの成蛇を見つけました(7/19)。ジムグリは長田谷津では数年に一度くらいの頻度で見かけるヘビです。個体数は少ないものと思われます。写真に残すために一時的に引っ張って拘束したら、臭い匂いを出しました。
- ・中央水路のすぐ横に1メートルほどのアオダイショウがいました(8/3)。うだるような暑さだったので涼んでいたのかもしれませんが。
- ・ヒガシニホントカゲの幼体がありました(8/3)。産まれてすぐのようで、黒色と青色がとてもきれいでした。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・久しぶりに、ミズタマソウがまとまって咲いていました(8/8)。ハンノキの下、やや日陰の場所です。この時期、湿地の日なたはカラスウリやカナムグラ、ツルマメなどのツル植物で覆われてしまうので、まるでツルの勢いが衰える木陰に避難してきたみたいです。
- ・今シーズンは、園路のそばにニオイタデが数株、伸びています(8/27)。手が届く距離なので、興味がある人は茎や葉を触ってにおいをかいでみてください。好き嫌いが分かれる独特なおいです。

◆南大野より

- ・大柏川沿いのバス通りを車で走っていたら、桜並木の何か所かでクマゼミが鳴いていました(8/1)。最初は、車輪に何か引っかかって、それがシャンシャン音を立てているのだと思ってしまいました。

◆坂川旧河口より

- ・絶滅危惧種のノカラムツが咲いていました(7/3)。すでに終盤で、若い実も目立ちました。

以上 金子謙一(自然博物館)

◆真間山南側斜面林より

- ・早い梅雨明けのあと、厳しい暑さが続くなか、ツクツクボウシが鳴き始めました(7/29)。セミは猛暑の中に秋の気配を感じはじめているのでしょうか。
- ・記録づくめの暑い夏でも草むらからカネタタキやコオロギの鳴き声が聞かれるようになり、ホッとさせられます(8/15)。

以上 T.Mさん

◆江戸川より

- ・ヒヌマイトトンボが生息するヨシ原で、シロバナサクラタデの群落が満開でした(7/8)。ほかにニガクサの花も見られました。

◆江戸川放水路より

- ・ちょっと涼しかった日で、この日はアシハラガニがちらほら見られました(7/11)。高水敷に近いヨシ原の水たまりで、クロベンケイガニやトビハゼと合わせて見られました。
- ・干潟にコチドリがいました(7/24)。すさまじく暑い日だったので、かわいらしい姿に心がなごみました。

以上 金子謙一

梅雨は6月下旬に明けてしまいました。7～8月は厳しい暑さが続き「平均気温が最も高い夏」になりました。熱中症警戒アラートが発令され、日中は屋外にいられない感じでした。船橋アメダスは猛暑日を15日記録しました。

ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入力いただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



ホームページの内容

- ・ご利用案内
- ・展示紹介、詳しい解説
- ・行事案内
- ・自然観察の記録、オリジナル動画
- ・博物館だより、出版物のご案内



＜行事のご案内＞

長田谷津は、
大町公園の自然観察園のもともとの呼び名です。

○長田谷津散策会

（申し込み不要・荒天中止）
季節の風景や動植物を楽しみながら、
ゆっくりと散策します。
集合：動物園券売所前 午前10時
解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

○湿地の環境整備を

お手伝いしていただきませんか
（要問合せ・荒天中止）
学芸員と一緒に環境整備作業を行います。
たとえば…湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、
水路の整備、など
集合：観賞植物園 午前10時
解散：集合と同じ場所で 正午

初参加の方は

- ・・・お電話で博物館までお問合せください。
- 湿地の中に入る作業もありますので作業内容や身支度などについてご説明します。

	長田谷津散策会		湿地環境整備	
10月	18日	土曜日	26日	日曜日
11月	16日	日曜日	23日	日曜日
12月	13日	土曜日	21日	日曜日
1月	18日	日曜日	25日	日曜日
2月	21日	土曜日	おやすみ	
3月	22日	日曜日	1日	日曜日
			29日	日曜日

第38巻 第4号（通巻第220号）

令和7年10月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
（市川市教育委員会教育振興部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477